

インターバンクの声（2017年12月19日）

週明けのロンドン、ニューヨーク市場でも相場の手掛かりとなる材料に乏しく、ドル円も米税制改革法案の年内成立期待だけでは、東京時間に付けた112円83銭のドル高値を更新することは出来なかった。むしろ112円台中盤ではドル売りで持ち高調整する市場参加者も多く、一旦は112円32銭まで下落している。昨日は東京に続いて海外でも株価が堅調だったにも関わらず円売り・ドル買いが進まず、米金利の変化にもドルが敏感に反応するようなこともなかった。ポジションの傾きも市場が想定しているよりも小さくなっているのかもしれない。欧州勢を中心に取引が活発化しているのがユーロやポンドの相場だが、ドイツの連立協議の進展期待や英国の欧州連合からの穏健離脱への期待感だけではユーロやポンドを買い続けるわけには行かないだろう。米税制改革法案は一両日中にも成立する見通しのようなのだが、市場がこれを本当に織り込んでいるかどうかは不透明で、ドル円も112円台中盤前後では手を出さない人が多くなっている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。